

2014 年度 甲南大学法科大学院入学試験問題

専門論文試験 刑法・刑事訴訟法

(120分)

受験についての注意

1. 試験開始の合図があるまで問題冊子を開いてはならない。
2. 問題は2ページまでである。印刷不鮮明、汚損等があれば申し出ること。
3. 解答用紙は刑法と刑事訴訟法各1枚である。解答用紙には裏面もあるので注意すること。
4. 解答は、該当する科目の解答用紙を使用すること。解答用紙を誤った場合、その答案は無効となる。
5. 答案は、横書きとする。
6. 答案は、実線内の番号に従って書き進めること。
7. 答案は、黒ボールペンまたは黒インクの万年筆で記入すること。これら以外で記入された答案は、無効となる。
8. 答案を訂正するときは、訂正部分が数行にわたる場合は斜線で、1行の場合には横線で消して、その次に書き直すこと。
9. 下書きには、問題冊子の余白を適宜利用すること。
10. 問題冊子は必ず持ち帰ること。

専門論文試験 刑法

【問題】 以下の〔事例〕に基づき、甲及び乙の罪責について、具体的な事実を摘示しつつ論じなさい（特別法違反の点を除く。）。

〔事例〕

- (1) 甲（28 歳）は、神戸市中央区所在の X マンションの 10 階 1008 号室において、友人乙（27 歳）とルームシェアをして暮らしていた。甲は、平成 25 年の夏以来、JR 神戸線三ノ宮駅付近の繁華街にある喫茶店「K」のウエイトレス A 女（18 歳）と交際していたが、同女が、会社員 B（当時 31 歳）から誘われるまま、ともに飲酒した上同人のアパートで情交関係を持ったことを知り憤慨し、B の勤務先であるペンギン急便株式会社へ赴き、同日午後 7 時ころ、B を自宅マンションへ案内した。
- (2) 甲は、その後、同日午後 9 時 30 分ころまでの間、B に対し、「お前どないすんねや。よその女抱きやがって。警察問題にするんか。女は 18 歳で未成年や。警察問題にしたら 5、6 年入らなあかんな。」、「俺の女に手を出してどないしてくれるんや。」等と語気鋭く申し向け、その顔面、頭部を数回に亘って手拳及びガラス製灰皿で殴打し、あるいは、その下腿部を足蹴りにする暴行を加えた。
- (3) 同日午後 9 時 30 分過ぎ所用で外出していた乙は、飲酒の上帰宅したところ、室内で B が既に頭部や顔面から血を流しているのを見て、いち早く事態の成行きを察知し、甲が B に対し暴行を加えて同人を負傷させた事実を認識した。乙は、甲から「B は悪い奴だ。お前も助けてくれよ。」と言われ、自らも一緒に B に暴行を加えようと思い、B の顎を手で 2、3 回突き上げる等の暴行を加えた。B は、これら一連の暴行により加療約 8 日間を要する顔面打撲、頭頂部挫創、右下腿打撲の傷害を負った。ただ、B の受傷の少なくとも大部分は、乙の加担前に生じていたことが明らかであり、加担後の暴行によって生じたと認め得る傷害は存在しなかった。
- (4) 甲は、乙が帰宅した後、ぐったりしている B に対し、さらに罵声を浴びせかけるなどしていたところ、B のズボンポケットに、現金 10 万円の入った財布があることに気が付いた。そこで、甲は、B に対し、「慰謝料としてこれはもらっておくぞ。いいな。」と申し向けたところ、B が黙ったままであったため、同人の財布から 10 万円を取り出して自身のポケットに収めた。

以上

専門論文試験 刑事訴訟法

【問題】

以下の項目、用語ないし原理などについて、簡潔に説明せよ（なお、判例を前提にする）。

- (1) 被告人の勾留を認めるための要件と手続について
- (2) 強制採血に必要な令状の種類について
- (3) 犯行計画メモの証拠能力と伝聞禁止原則の関係について
- (4) 一事不再理効について